

2日目 オフィチエンシム アウシュビッツ第1収容所-1

いよいよアウシュビッツへ

そして翌朝、

ホテルまで迎えに来ていただいたガイドのモニカさんとともに、バスにのりこんで一路、アウシュビッツ博物館へ。

トランクが下に入る大型バス。なんだか修学旅行を思い出します。

2人がけを1人で占領するなど、修学旅行より座席をゆったりととっていますけど。



高速にのって1時間ほどして、最初の目的地、アウシュビッツ第1収容所へ。

私は、

10年前にきたときは高速のったかなあ……

とぼんやりと思いながらバスにゆられていました。

のどかな草原のなかの田舎道を、タクシーで、農作業に向かう馬車の後ろを走った記憶があります。

そして第1収容所に到着。

第一印象は、観光客だらけ……



いろいろな国の人たちが、いろいろな言葉で話して、いろいろな言葉で案内されています。
狭い展示室にいろんなグループが入ったら、言語は入り乱れるし、説明もよくわからなくな
りそう……

というわけで……

博物館内では、グループごとにヘッドフォンがわたされます。
ガイドから離れても、説明はヘッドフォンから聞こえてくるのです。



前回私はツアーではなく、友人と二人でやってきたので、ガイドはありませんでした。
当然ヘッドフォンもしていません。そして、こんなに人がいた記憶もありません。
モニカさんからヘッドフォンを受け取りながら、こんなに人がいたかなーと、10年前と記
憶が一致できずに、戸惑っていました。

人の髪の毛で作られた織物の前で写真撮っている人もいるし……
そんな気分になれるところではなかったと思うのですが……
(そもそも、フラッシュ禁止なのに……)

そんなことを考えると、説明もうわの空。

しかし、このあとの予定がつまっているので、モニカさんはガイドとして任務を着々と遂行していきます。

他グループにまざって 16 人という大所帯の見学。

狭い地下で、モニカさんの説明が始まる時には、

最後尾はまだ建物にすら入っていないという状態で時差が発生。

さらに時間内に終わらせないと次の予定がこなせないので、

モニカさん少々早足、説明も省略気味。



博物館をみるペースは人それぞれ、さらに大人数、見学場所は狭い、なかなか難しいところです。

なんとか見学を終了し、近くで食事。

午後の予定は、収容体験者の体験談の拝聴です。



saita (c)